

2017.11.14

会員の皆様、こんにちは。

近頃、視覚障がいを持つ方の電車のホームでの転落事故などが増えて社会問題となり、まだまだ障がいを持つ方が安全に生活できる環境が整っていないことを痛感させられます。政府では、2020年のオリンピック・パラリンピック大会を一つのきっかけに、ユニバーサルデザインとして、障がいを持つ方も利用しやすい、製品・サービス・環境作りを推し進めています。

今回のテーマは「標準化で点字をより便利で安全に」です。点字は、公共機関などをはじめ、多くの施設や製品で随分浸透していますが、まだ課題も多いのです。是非ご一読ください。

石田まさひろ政策研究会

標準化で点字をより便利で安全に

■ 点字の歴史と課題

視覚に障害のある方のために発明された点字。その成り立ちは19世紀まで遡り、今や世界各国の様々な場所や製品で活用されている。



階段の手すりに表示された点字

しかし、発明から200年近くたった今も、実は、表示方法が統一されていないのである。そのため、視覚障がい者が移動中に迷ったり、製品の誤操作をしてしまうケースが後を絶たない。そのため、利用者が安全かつ便利に利用できる点字表示が課題となっている。

■ 国際規格を定めて利便性向上へ

より読みやすく誤認のない点字表示を目指し、日本が主導となり点字に関する国際規格を策定した。言語が異なれば点字体系も異なるが、各国独自のルールを国際規格に盛り込むことはできない。今回の国際規格では、判読しやすい点字の寸法や表示方法等について定めている。



エレベーターのボタンの左側に表示された点字

■ 例えばこんな国際規格が

操作ボタンがある場合、点字はボタンの左側か上側に表示するよう定められた。これにより、エレベーターのような複数縦列に配置された操作ボタンの場合でも、点字がどの操作ボタンの情報を示しているかがすぐに分かり、視覚障害者が移動中に迷わなくなり、利便性が向上した。

■ 国内のルール整備も

国際規格の策定を踏まえて、国内規格である日本工業規格（JIS）も改正した。その一つに、家電製品の狭いスペースに適切な点字表示ができるように日本独自の略語表記を定めた。例えば、「炊飯・スタート」を表現する時に、実際は「すいはん・すたーと」表示したいところだが、「炊く」を示す「タク」などと簡略化した標記に置き換えている。

このような改正により、電気ポットのボタンの押し間違い等、製品の誤操作を防ぎ、

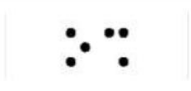

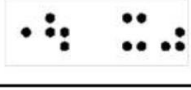
視覚障がい者が事故なく、安全に製品を利用できるようになった。

■ 標準化を通じて便利で安全に

このように製品の形状や寸法などを標準化して、日本工業規格（JIS）を定めることを工業標準化という。統一的な規格があることで、品質の担保や誤認識を防ぐなどのメリットが生まれ、製品利用者の利便性や安全性の向上が図られている。

著者：池田岩男

より短く分かりやすい同意義の単語に置き換える略語表記の例

墨字	仮名表記	置換した単語	点字読み	点字表記
炊飯・スタート	すいはん・すたーと	たく（炊く）	タク	
洗浄	せんじょう	あらい（洗い）	アラ	
時間 分	じかん ふん	じ ふん	ジ フン	

（注）“墨字”とは活字で書かれた文字